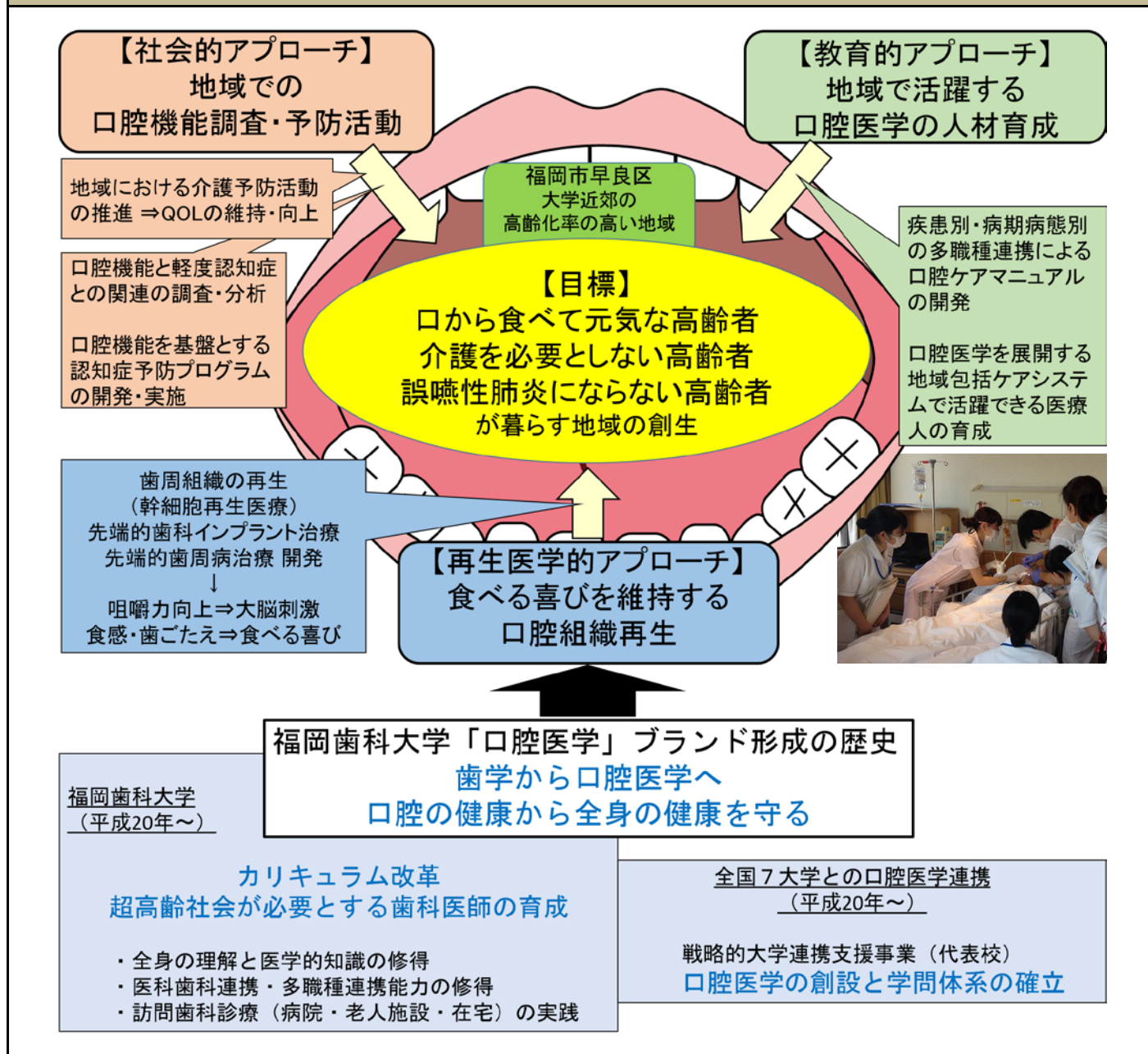


平成29年度私立大学研究ブランディング事業計画書

1. 概要（1ページ以内）

学校法人番号	401013	学校法人名	福岡学園		
大学名	福岡歯科大学				
主たる所在地	福岡県福岡市早良区				
事業名	高齢者ヘルスプロモーションと地域包括ケアへの口腔医学の展開 ～要介護化阻止と誤嚥性肺炎ゼロを目指して～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	720人
参画組織	口腔歯学部・大学院歯学研究科・医科歯科総合病院				
審査希望分野	人文・社会系		理工・情報系	生物・医歯系	○
事業概要	福岡歯科大学は全身の健康を守るために歯科医療を展開する「口腔医学」の理念のもとに、歯学教育を改革してきた。本事業では、この「口腔医学」を大学近郊の高齢化の進む地域に展開し、口腔機能の維持・向上によって認知機能の維持をはかり、要介護化の阻止、誤嚥性肺炎の予防および高いQOLを達成する。社会的・教育的・再生医学的の3つのアプローチにより、地域に「口腔医学」を基盤とする保健・医療・介護を推進する。				

イメージ図



2. 事業内容（2ページ以内）

（1）事業目的

【福岡歯科大学、外部環境、社会情勢等の現状・課題】

○ 福岡歯科大学の「口腔医学」の取り組みについて

近年、日本社会の急激な高齢化にともない在宅や介護老人施設での訪問歯科診療のニーズが高まっており、また誤嚥性肺炎の予防のため、口腔ケアや口腔機能の重要性が広く認識されている。さらに、歯科疾患が糖尿病などの全身疾患に影響を及ぼすことも知られている。これまでに、福岡歯科大学は口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の理念を全国で初めて提唱し、教育・研究・臨床を通じて大学改革に尽力してきた。平成20年度からは文部科学省戦略的大学連携支援事業の代表校として、国内7大学とともに「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」に取り組み、全身を理解した歯科医師の育成によって歯学教育にパラダイムシフトをもたらした。次のステージでは、「口腔医学」を高齢化の進む地域社会に展開し、介護予防にむけたヘルスプロモーションや地域包括ケアに貢献することが重要である。

○ 高齢者の健康に対する早期からの口腔ケア・口腔機能維持の重要性について

1. 最新の国勢調査（2015年）によると、全人口に占める65歳以上の割合は26.6%であり、2045年に37.7%になると予測されている。高齢者に認められるフレイルやサルコペニアは著しい生活の質（QOL）の低下を招く。
2. WHOによる The World Oral Health Report 2003 の政策基盤によれば、口腔と全身の健康との関係についてはエビデンスが明らかであり、口腔の健康がQOLの決定要因であることを指摘している。
3. 介護が必要となる主な原因は、認知症、脳血管疾患、高齢による衰弱、骨折・転倒、関節疾患である。これらのうち、認知症または骨折・転倒と喪失した歯の数との関連性が示唆されている。そこで、早期からの嚥下評価・訓練、食事形態の評価、口腔ケアの実践が重要である。要介護者に対する適切な口腔ケアは、口腔機能を向上させ、致命的な誤嚥性肺炎を予防し、高いQOLの維持を可能にする。
4. 認知症患者は2020年に700万人にも上ると推計されており、認知症高齢者の介護が大きな社会負担になってきている。認知症に進む前の段階の軽度認知障害（MCI）における予防が大きな課題であるが、老年期に至るまでの口腔の健康状態とMCIとの関連についての詳細な調査が必要になっている。

○ 福岡歯科大学を取り巻く地域の高齢化について

1. 福岡市は全国の中ではまだ若い都市である（全国高齢化率：26.6%、福岡県：25.2%、福岡市：20.5%）といえるが、本学周辺は全国の平均以上の高齢化率（野芥地区、29.0%）になっている。とりわけ、佐賀県との県境に位置する曲淵地区は福岡市の高齢化率第1位（45.9%）であり、近隣の脇山地区でも33%を超える高齢化率となっており、日本国内でも突出した高齢化集落である。
2. 高齢者の中の要支援・要介護認定者でない集団に対する介護予防事業は、今後の地域の健康長寿実現に最も大きな影響を及ぼすことから、福岡市はこの集団を対象に介護予防教室として、認知症予防などの講話、口腔機能向上体操、ロコモ予防運動およびグループワークを組合せたプログラムを実施してきた。福岡歯科大学は地域ごとの自主的な活動グループの形成を支援してきた。

○ 歯周組織再生療法について

歯の喪失は、咀嚼機能および脳への感覚入力の低下によりQOLの低下を惹き起こす。重度の歯周病に対しては、歯槽骨の再生による歯の喪失の阻止が望まれており、また歯の喪失後の歯科インプラント治療においては、食感などの感覚の再生が望まれている。そこで、歯槽骨とともに中枢への感覚入力を担う歯根膜を複合体とした再生療法が望まれるが、この取り組みはいまだ不十分である。

【事業目的】

以上のように、福岡歯科大学の近隣には高齢化率の高い地域があり、そこには要支援・要介護認定を受けた高齢者が多い。今後、この割合が変わらないまま地域の高齢化が進むと、要介護高齢者数は増加し、医療介護資源を逼迫させる。そのような超高齢社会において、QOLを維持する上で「口腔の健康」は重要である。食べる喜びは生活への満足感や生きがいを生み出し、脳および身体の活性化に密接に関与する。口腔機能の向上は、低栄養や誤嚥性肺炎の予防およびサルコペニアやフレイルなどの著しいQOL低下の予防にも重要である。さらに、生涯にわたって咀嚼機能から脳・身体機能までの活性化を図り、高齢者の認知症化を阻止するために、壮年期から口腔の健康の維持を積極的に図る新たな視点が必要になる。

そこで、本事業では、現高齢者とともに今後高齢を迎える壮年層を対象に、「口腔医学」により要介護化の阻止と誤嚥性肺炎の予防、そして生涯に亘って口から食べて豊かな生活を維持するために、1) 口腔関連指標とMCIとの関連を明らかにして、認知機能を維持するために口腔健診や介護予防教室を契機としたMCIへの早期介入について検討し、2) 多職種連携により地域高齢者の医療・介護に貢献できる疾患別・病期病態別口腔ケアマニュアルを作成して、それを基にした教育プログラムを作成・実践し、3) 口腔組織の再生医学的研究により口腔機能の維持・向上を達成する技術の創生を試みる。これらの取組みを通して、「口腔医学」を地域の保健・医療・介護に展開し、またわが国全体へ情報発信する。

【福岡歯科大学の将来ビジョン】

本学の学校法人である福岡学園は、建学の理念を踏まえて平成29年度から6年間の将来ビジョンを「第三次中期構想」に記した。そこには、「口腔医学の理念の下に、日本の社会基盤を支える高度の専門的能力および倫理観を備え、高い教養に育まれた豊かな人間性を有する歯科医師、看護師、保健師、歯科衛生士、介護福祉士を養成するとともに、教育研究・医療・保健・福祉・健康活動を強化し、広く地域・社会に貢献する」とある。基本的な方針として、1) 超高齢社会において口腔の健康から全身の健康を守る医療の普及のため口腔医学教育を推進すること、2) 口腔医学を基盤とする研究レベルの向上を図るとともに、全学的独自色を打ち出す研究事業を通じて先進的学術成果を社会に発信すること、3) 地方自治体や職能団体との医療・保健・介護・福祉における連携を拡充して地域包括ケアシステムの形成に貢献することが挙げられている。

(2) 期待される研究成果**【本事業の趣旨と全学的な優先性】**

本事業は「タイプA」に則ったテーマとして、地方公共団体、地元の医療機関や企業との連携によるニーズ分析に基づいて研究が計画され、さらに各団体との連携を図りながら調査・研究が実施される。大学近郊の高齢化の進む地域に対して、「口腔の健康から全身の健康を守る」ための保健・医療として口腔医学を展開し、要介護化の阻止や誤嚥性肺炎の予防、高齢者のQOLの向上、さらにはこれらを担う人材育成に繋げる。

本事業は大学全体のブランドである「口腔医学」を大きく推進する事業であり、全学的な優先性が最も高く、福岡歯科大学に所属する基礎医歯学系・社会医歯学系・臨床医歯学系の多数の研究者および大学院生が参加して、学長の指揮のもとで全学的なプロジェクトとして実施されることが決定している。本事業は、「社会的アプローチ」、「教育的アプローチ」、「再生医学的アプローチ」から構成される。

【3アプローチの内容と期待される研究成果、貢献・寄与する範囲、実現可能性】**(1) 社会的アプローチ**

内容と成果：認知症については、認知症に進む前の軽度認知障害（MCI）における予防が重要とされている。近年、咀嚼機能の向上による脳の活性化が報告されているが、口腔の健康状態と認知症との関連については疫学的な調査が望まれている。本アプローチによって、地域在住者を対象に、口腔健診や介護予防教室の際にMCI検査を実施する仕組みを作り、現在歯数などの口腔関連指標とMCIの関連を明らかにし、さらにはMCIへの早期介入の方略を策定する。また、地域在住者に対して介護予防活動の場所を提供し、口腔機能向上体操、MCIや口腔疾患の早期治療勧告を従来型のロコモ予防運動などの介護予防活動と一体化させ、口腔医学を基盤にした介護予防活動も推進する。さらに、本学は学校法人の敷地内に同一法人の福岡看護大学および福岡医療短期大学（歯科衛生学科、保健福祉学科）が併設されており、本学口腔歯学部学生だけではなく、歯科衛生士、介護福祉士、看護師の養成課程の学生の教育にも組み込むことにより、人材育成にもつなげる。

寄与する範囲：MCIを含めた健診体制の確立によって、地域在住高齢者にとっては、本人の認知症予防として有効であり、介護する側にとっては負担の減少が期待でき、地域の介護予防を支援する機関にとっては、健康教育を担える人材の育成ができ、行政にとってはMCIの早期発見、医療費・介護費の削減が期待でき、医療機関にとってはMCIの早期発見による医療資源の選択的投入が可能になる。

実現可能性：口腔健診や介護予防教室でのMCI検査の体制は、現在の人員および保有する機材を用いることで整備できる。本学は福岡市からの介護予防教室事業の受託事業者として2年間関わってきた実績があるなど、地域在住高齢者のリクルートについては、地域連携事業を通じて地域のキープアスの連携体制を確立してきた。以上により、成果や寄与する範囲について実現可能性は高い。

(2) 教育的アプローチ

内容と成果：現在まで、がん治療における手術・化学療法・放射線療法・緩和ケアなど病態別の口腔ケアは標準のプロトコールが存在するが、疾患別や急性期から回復期・慢性期・終末期に至るまでの病期別口腔ケアについては標準化されていない。特に高齢者においては、骨折などにより入院生活を強いられ、ベッド上での生活により全身のサルコペニア・フレイルを引き起こし、その影響による嚥下機能の低下から誤嚥性肺炎を惹起し、手術の延期や最悪のケースとしては亡くなることもある。このような負の連鎖を起こさないために、本アプローチによって、疾患別・病期病態別に詳細に解説された新たな口腔ケアマニュアルを作成し、早期からの口腔機能や嚥下機能維持を含む口腔ケア法を多職種連携により実践する。本プログラムにより、本学学生および歯科衛生士、介護福祉士、看護師の学生との多職種連携による全国に先駆けた新たな教育プログラムの開発・推進を行い、地域包括ケアシステムで活躍できる次世代の医療人を育成する。

寄与する範囲：医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・言語聴覚士・管理栄養士・介護福祉士などの医療・介護従事者、ならびに大学在学学生を対象として、多職種連携の下で活躍できる人材を育成し、新たな口腔ケアマニュアルの普及とともに地域包括ケアシステムに貢献する。

実現可能性：本学の敷地内には同一法人を含む2箇所および隣接する地区に1箇所の介護老人施設がある。本学医科歯科総合病院では平成11年度から介護老人施設や居宅への訪問歯科診療を開始し、引き続いて学生の介護実習を開始した。平成26年度には周術期の口腔管理を目的に近隣の急性期病院と連携し、訪問歯科診療と学生実習を開始した。本学のこれまでの地域住民に対する口腔ケアの実施や教育の実績、また学会等への報告は高く評価されており、新たな口腔ケアマニュアルの作成、人材育成ともに実現可能性は高い。

(3) 再生医学的アプローチ

内容と成果：本研究では、幹細胞由来の組織化スフェロイドによって歯槽骨と歯根膜の組織再生を行い、歯槽骨の吸収の進んだ重度歯周病や歯科インプラント治療をサポートする再生療法の開発を目指す。事業期間中に基礎研究を完成させ、臨床試験に至る準備を完了する。

寄与する範囲：歯科医学および再生医学の分野に研究成果を発信し、学術的貢献をはかる。歯の喪失に対する歯科インプラント治療をサポートする再生療法、歯の喪失を防ぐ歯周病治療をサポートする再生療法を開発することにより、咀嚼機能とともに食感や歯ごたえといった感覚機能の維持された高齢者を増やすことによって、脳機能の活性化と口腔機能維持による要介護化阻止の社会的な基盤構築に貢献する。

実現可能性：これまで、福岡歯科大学では、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された「生体内環境を調和する硬組織再建システム（S1001059、平成22～26年度）」を実践するため、平成22年度に再生医学研究センターが開設された。該当期間中、多くの研究業績（総説4、原著166、学会発表267、特許3）をあげ、高い事後評価（A、B）が得られている。このような高い事業実績を基盤に地域医療機関・企業との連携も強化しており、実現可能性を高めている。また、研究戦略的には歯自体の再生ではなく、歯根周囲の歯周組織の再生であるため、早期に実現できる可能性が高い。

3. ブランディング戦略（5ページ以内）

以下、①将来ビジョンと独自色については、事業全体として記載し、②ステークホルダー、③本学のイメージ、④事前分析、⑤情報発信、⑥具体的な工程、⑦成果指標【達成目標（目標値）】、および⑧進捗状況の把握については、全体的ブランディング戦略および3つのアプローチの各々でステークホルダーが異なるので、それぞれで整理して②～⑧を記載する。

【大学の将来ビジョンと本事業で打ち出す独自色】 ①

前述の通り（2. 事業内容の大学の将来ビジョン）、本学の学校法人である福岡学園は、建学の理念を踏まえて平成29年度からの6年間の将来ビジョンを「第三次中期構想」に記し、基本方針として、超高齢社会に対応した口腔医学教育の推進、口腔医学を基盤とする研究の発展および全学的独自色のある研究事業の成果の発信、地方自治体や職能団体との連携の拡充および地域包括ケアシステムの構築への貢献を挙げている。本事業は、口腔医学を高齢化の進む地域社会に展開して、介護予防に向けた高齢者のヘルスプロモーションや地域包括ケアシステムに貢献するとともに、健康長寿の基盤となるよう歯科再生医療を推進しようとするものであり、大学の将来ビジョンを実現するために実施されるものである。このような取り組みは他大学にはみられない独自色の強い事業である。以上の大学の将来ビジョンと「口腔医学」を基盤とする研究ブランディング事業の内容については、大学広報誌、大学ホームページ、年頭行事や職員説明会での伝達等の多様な方法により学内に十分に周知されてきた。

【ブランディング戦略の具体的な工程：事前分析と本学イメージの確立】 ③④⑥

具体的な工程（⑥）：平成28年6月に、学長の指揮の下で「研究ブランディング事業実施委員会」（図参照）が立ち上がった。その後、同実施委員会では、本学の将来ビジョンを具体化した研究ブランディング事業を検討するとともに、外部からの意見聴取（表参照）に基づく事前分析を行った。それに基づいて、本学イメージとステークホルダーを策定し、さらに情報発信方法、成果指標【達成目標】と進捗状況の把握法を決定した。

学 長

研究ブランディング事業実施委員会

医科歯科総合病院 病院長
口腔歯学・全身管理歯科学・社会歯科学・基礎歯科学 各部門長
再生医学研究センター教授
基礎歯科学部門教授
事務局長、事務局次長

事前分析（④）：平成20年度からの本学の口腔医学の取り組みは、超高齢社会に対応した歯科医療のあり方を示すものと認識されており、それに基づくこれまでの教育改革や地域社会、地域医療機関および地方自治体と連携した保健・医療・介護の活動は高く評価されている。昨年4月に発生した熊本地震では、本学の歯科医療支援チームは、主に被災地の介護老人施設や居宅の要介護高齢者の口腔管理、摂食・嚥下のアセスメントや嚥下指導を行い、支援終了時まで担当地区で誤嚥性肺炎による災害関連死者数ゼロを実現し、被災地ならびに歯科医師会から深く感謝された。本学の今後の口腔医学の推進は、行政、歯科医師会、学術団体等から大きく期待されている。また、今年4月の厚生労働大臣の口腔保健政策に関する国会委員会答弁の中でも、「口腔の健康が全身の健康につながる」ことや、「地域包括ケアシステムの構築の中で歯科医療連携体制を作ることの重要性」が強調されており、国の施策にも合致する事業であると確信している。

本学のイメージ（③）：口腔医学を高齢化の進む地域社会に展開して、口から食べて元気な高齢者、介護を必要としない高齢者、誤嚥性肺炎にならない高齢者の暮らす地域を創生する大学

項目	事業戦略全体	社会的アプローチ	教育的アプローチ	再生医学的アプローチ	氏名・所属	専 門
意見聴取	○			○	細川隆司（九州歯科大学 歯学科口腔機能学 口腔再生リハビリテーション学 教授）	口腔インプラント学研究者
	○			○	野口和行（鹿児島大学大学院歯学総合研究科顎顔面機能再建学歯周病学分野 教授）	歯周病学研究者
				○	澤瀬 隆（長崎大学大学院歯学総合研究科 展開医療科学講座 口腔インプラント学分野 教授）	口腔インプラント学研究者
			○		柿本保明（九州歯科大学 口腔環境科 教授）	高齢者歯科医療研究者・口腔ケア専門家
			○		安元佐和（福岡大学 医学部医学科 医学教育推進講座 教授）	医学教育研究者
		○	○		中 四良（福岡市歯科医師会早良支部 副会長）	地域歯科医療統括者
	○	○	○	○	神田晋爾（一般社団法人福岡市歯科医師会 副会長）	地域歯科医療統括者
		○	○		井林晋郎（特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院理事長/院長）	高齢者医療従事者
		○			三野原義光（医療法人民江堂 油山病院 病院長）	認知症専門家
			○		関谷弘子（医療法人福西会 福西会病院 副看護部長）	高齢者医療従事者
○	○			永野美紀（早良区保健福祉センター長）	地方行政機関	

【ブランディング戦略のステークホルダー、情報発信、達成目標と進捗状況の把握】 ②、⑤～⑧

ステークホルダー (②) は、地域医療機関、介護老人施設、職能団体、医療・介護従事者、学生・研究者・受験生、地方行政機関に定めた。本学の研究ブランドの事業概要と成果を**情報発信 (⑤)** するために、「研究ブランディング事業実施委員会」が、毎年、オープンキャンパス（7月～8月）、学園祭でのブース展示（毎年10月）、市民公開講座（毎年7月）、および地域連携推進協議会（毎年4月）で広報するとともに、アンケートで認知度や評価を調査する。事業3年目と5年目には事業成果に特化した市民公開講座を開催する。さらに本学企画課広報係による近隣住民を対象にした地域公民館だよりへの記事掲載や最寄り地下鉄駅の駅貼ポスターでの紹介、ならびに福岡市民や教育・医療関係者対象とした新聞・雑誌の特集記事・広告によって本事業成果の概要を地域社会へ公開する。

成果指標【達成目標】 (⑦) : 公開講座・オープンキャンパス・学園祭展示ブースの実施数【年4件】・参加者数【毎年計800名】、認知度アンケート回答数【毎年200件】、医療機関・行政機関等からの大学イメージ調査回答数【毎年5件】とする。**進捗状況の把握 (⑧)** のために、「研究ブランディング事業実施委員会」がブランディング戦略と3つのアプローチの事業成果報告会を開催し、チームごとの自己点検・評価に合わせて、地域行政機関関係者、医療従事者、歯学研究者から構成される外部評価者（表参照）に評価を依頼する。

【社会的・教育的・再生医学的アプローチ】

(1) 社会的アプローチからの戦略（口腔機能調査・予防チーム）

ステークホルダー (1)-② :

地域高齢者の認知症予防、安定化による介護負担の減少、医療費、介護費の削減、医療資源の選択的投入、口腔医学的な健康教育を担うことのできる人材の育成などの効果を踏まえて、ステークホルダーを、

- 1) 地域在住高齢者、地域在住者
- 2) 介護予防活動参加者
- 3) 地域医療機関
- 4) 地方行政機関 に定める。

本学のイメージ (1)-③ :

口腔医学を基盤とした介護予防活動によって、地域住民の要介護化を阻止する高齢者のヘルスプロモーションを支える大学

事前分析 (1)-④ :

医療機関、地域在住者、介護支援者、行政機関との連携を通じて意見聴取を行った（表参照）。**認知症高齢者の介護が大きな社会負担になってきており、地域の健康長寿実現には、認知症に進む前の段階における予防が重要とされている。**そのためには、地域での定期的なMCI健診の機会が求められている。そこで、**口腔健診や介護予防活動の機会を通じてのMCIスクリーニング検査はデータを収集する上で有益であると分析された。**本アプローチによって、**現在大きな関心となっている現在歯数などの口腔指標がMCIと関連するかを大規模に調査することができる**との意見が寄せられた。また、平成27～28年度に福岡歯科大学で受託実施した30回の介護予防教室には、大学周辺地区から通算420人の参加者があり、**意見聴取でも地域高齢者の介護予防へ積極的に取り組んでいる大学であると認識されていることが分かった。**

情報発信 (1)-⑤ :

1) 地域在住高齢者や地域在住者：平成30年1月以後、調査対象大学周辺 計9小学校区の全戸に対するポスティングを実施して、口腔健診・MCIスクリーニング検査および介護予防教室活動への参加を呼びかける。また、口腔健診結果・MCIスクリーニング検査およびフォローアップ検査結果の個別フィードバックを行う（平成30年4月～平成34年3月）。さらに、平成30年12月以降は、本学ホームページやプレスリリースなどのメディア活用により、口腔健診結果とMCIスクリーニング検査結果との統計学的調査の成果を公表する。さらに、成果について市民公開講座を開催し（平成31年7月）、地域住民に対する啓発活動を行う。

2) 介護予防活動参加者：教科書、教材ビデオのオンライン出版やWeb上での公開により、口腔医学を基盤とした介護予防活動で期待される効果を紹介するとともに、口腔健診・MCIスクリーニング検査および介護予防教室活動への参加を呼びかける（平成30年4月以後）。

3) 地域医療機関：上記と同様に口腔医学を基盤とした介護予防活動で期待される効果を紹介し（平成30年4月開始）、口腔健診結果・MCIスクリーニング検査およびフォローアップ検査結果にもとづいた住民の早期治療依頼の紹介を行う（平成30年4月～平成34年3月）。さらに学会発表や学術雑誌（平成30年4月～平成33年3月）により、口腔機能の維持と認知症予防の関連性についての成果を公表する。

4) 地方行政機関：地域在住高齢者の口腔健診および健康教室への来場者数を報告し、地域連携事業の浸透を周知する。口腔機能の維持と認知症予防の関連性についての成果公表、学会発表・論文を踏まえ、口腔の健康維持への投下財源と期待できるベネフィットについての分析を行い、事業促進のための政策提言をまとめ、行政への働きかけを行う（平成31年4月～平成34年3月）。

具体的な工程 (1)-⑥ :

「研究ブランディング事業実施委員会」は、「口腔医学」の理念を具体化した研究ブランディング事業を支える1つの戦略として本アプローチを位置づけ、ステークホルダーと本学のイメージを立案した。その後行った外部からの意見聴取に基づいて事前分析を行い、情報発信方法を決定した。

1) 地域在住高齢者や地域在住者および2) 介護予防活動参加者：口腔機能調査・予防チームにより、口腔健診・MCIスクリーニングスタッフの養成および精神科医などの地域認知症高齢者医療担当者との連携組織構築ならびに介護予防活動の環境整備を行ったうえで、地域在住高齢者の口腔健診を実施し、MCIの所見を有する地域在住者を特定し、健康指導と早期介入を開始する。

3) 地域医療機関 および 4) 地方行政機関：口腔健診によって得られたデータによって、口腔関連指標とMCIの関連の分析を行う。さらに、地域高齢者のフォローアップ調査を行い、MCIへの早期介入の有効性に関する情報を収集し、地域への認知症予防の啓発活動と政策提言を行う（平成30年9月～平成33年3月に調査および広報活動を予定）。

工程ごとの成果指標【達成目標】(1)-⑦：

1. 口腔健診・MCIスクリーニングスタッフの養成（健診1チーム人数【5名】、健診チーム数【2チーム】）。
2. 介護予防活動の環境整備（常設の運動施設の調達箇所【6小学校区に各1か所】と登録メンバー予約システムの整備）、オンライン出版教科書・Web公開教材ビデオのページビュー数【3万件】、掲載記事【4編以上】。
3. 精神科医などの地域認知症高齢者医療担当者との連携組織構築（対象地域の認知症治療医および地域包括ケアセンタースタッフとの連携網構築数【5か所】）
4. 地域在住高齢者の口腔健診や介護予防活動の実施（実施回数【年32回】、参加者数【毎年840人】）。
5. MCIへの健康指導と早期介入、歯科医または認知症相談医受診勧告【介入件数(必要件数の80%以上)】。
6. 参加者をコホート集団への登録（登録者数【毎年500名以上】）。
7. 口腔関連指標とMCIの関連を分析（学会発表数【20回以上】、論文掲載数【5編以上】）
8. 地域高齢者のフォローアップ調査（定期健康調査結果にもとづく長期的効果の評価とMCI発症者に対する早期治療勧告）
9. 地域への認知症予防の啓発活動と地域行政への提言（成果物オンライン出版教科書・Web公開教材ビデオのビュー数【3万件】、アンケートの実施【500件】、最終研究報告書に基づく政策提言の実施）
10. 本プロジェクト開始3年目である平成31年度終了後に中間研究報告書を作成、最終年である平成33年度終了時に最終研究報告書を作成する。

進捗状況の把握 (1)-⑧：

口腔機能調査・予防チームが、養成コース修了スタッフ数、連携組織数、口腔健診実施数、健康指導・MCI早期介入対象者数の実施状況を収集して、進捗状況を把握する。中間研究並びに最終研究報告内容はブランディング事業実施委員会によって評価される。

(2) 教育的アプローチからの戦略（口腔医学人材育成チーム）

ステークホルダー (2)-②：

地域包括ケアシステムにおける、MCIを含む疾患別・病期病態別の多職種連携による口腔ケアマニュアルと教育プログラムの開発を踏まえて、ステークホルダーを、

- 1) 歯科医師、看護師、歯科衛生士、介護福祉士
- 2) 地域医療機関や職能団体
- 3) 教育機関ならびに各教育機関の学生・受験生 に定める。

本学のイメージ (2)-③：

口腔機能の維持・向上を含む適切な口腔ケアを実践する能力を有し、地域包括ケアシステムの中で活躍する医療人を育成する大学

事前分析 (2)-④：

地域医療機関、歯科医師会、行政機関との連携を通じて意見聴取を行った（表参照）。口腔とはかけ離れた疾患においても、歯科医師など多職種連携による疾患・病期病態別の口腔ケアマニュアルや口腔および嚥下機能評価・プランの作成が、高齢患者の健康回復には必須であることが明らかになった。現在、公開されている口腔ケアマニュアル（日本歯科医師会、日本歯科衛生士会、地域歯科医師会および歯科衛生士会によるマニュアル、全国の病院歯科、医科大学歯科および歯科大学による独自マニュアル）について調査を行ったところ、本プロジェクトで作成予定の疾患・病期病態別の口腔ケアマニュアルと同様のものは存在しないことが確認された。アンケートによって、本学のこれまでの地域住民に対する口腔ケアの実施や教育の実績、また学会等への報告は高く評価されていることがわかった。

情報発信 (2)-⑤：

- 1) 歯科医師、看護師など：講演会（本学および歯科医師会主催）、出版・学会発表や学術雑誌の論文などにて情報発信する。
- 2) 地域病院、歯科医師会・歯科衛生士会など：新口腔ケアマニュアルや教育プログラムの内容・成果等を冊子として配布し、新口腔ケアマニュアルの地域医療現場での活用のための啓発活動を行う（発信時期：新口腔ケアマニュアルに関しては本プロジェクトの4年目、教育プログラム成果に関しては最終年度終了後）。
- 3) 在学生、受験生：本学等のホームページに公開するほか、授業カリキュラムの中で情報発信する。受験生に対しては、入学案内やオープンキャンパス案内（ホームページ、パンフレット）に掲載することによって、

「口腔医学」に即した人材育成について啓発して受験者の増加につなげる（発信時期：オープンキャンパスは7～8月頃、入学案内は5月頃に完成次第）。

具体的な工程 (2)-⑥：

研究ブランディング事業実施委員会は、「口腔医学」の理念を具体化した研究ブランディング事業を支える1つの戦略として本アプローチを位置づけ、ステークホルダーと本学イメージを立案した。その後の外部からの意見聴取に基づいて事前分析を行い、情報発信方法を決定した。

1) 歯科医師、看護師など および 2) 地域病院、歯科医師会・歯科衛生士会など：口腔ケアマニュアル作成および教育プログラム作成のための組織を構成した後、マニュアルおよび教育プログラムを作成し、外部評価者を含めた評価を経て、完成を目指す。マニュアル・教育プログラムについての研究成果を公表する。

3) 在学生、受験生：3年目から福岡歯科大学口腔歯学部学生・福岡看護大学学生・福岡医療短期大学歯科衛生士学科・保健福祉学科学生を対象にした教育プログラムを開始する。

工程ごとの成果指標【達成目標】 (2)-⑦：

1. 疾患別・病期病態別口腔ケアマニュアルの作成と歯科医師会・歯科衛生士会・地域病院への啓発活動の達成（地域医療現場でのマニュアル配布数【2000部】や講習会の数【3回】および活用状況アンケート調査数【100人】）

2. 新口腔ケアマニュアルを使用した口腔ケア実施による臨床的効果および患者満足度の向上（Oral Health Assessment Tool (OHAT) 評価シートによる口腔状態評価と歯科治療・嚥下指導の実施による改善度分析数【100件】、患者満足度アンケート調査数【100件】）

3. 多職種連携口腔ケア教育プログラムの作成・実施と、地域包括ケアシステムの一員として活躍できる医療人の育成（口腔ケアマニュアルを用いた多職種連携教育プログラムの適切な実施を示す授業シラバス【平成32年度から年度初め1回発行】、調査・学生のポートフォリオ・小テスト【習熟度調査結果*】）

* 事業期間中に本教育プログラムを実施する学生数は、口腔歯学部学生5年次300人（各年100人）、福岡看護大学学生4年次300人（各年100人）、福岡医療短期大学学生・歯科衛生士学科3年次240人（各年80人）および保健福祉学科2年次150人（各年50人）の合計約1000人となる予定である。また実施する介入施設は病院および介護老人施設を合わせて11件の予定である。

4. 疾患別・病期病態別口腔ケアマニュアルの作成、口腔ケア実施による臨床的効果、多職種連携口腔ケア教育プログラムの作成・実施に関して学術界へ対する研究成果の公開（学会発表数【20題以上】、論文掲載数【5編以上】）

5. 本プロジェクト開始3年目である平成31年度終了後に中間研究報告書を作成、最終年である平成33年度終了時に最終研究報告書を作成する。

進捗状況の把握 (2)-⑧：

口腔医学人材育成チームが、口腔ケアマニュアル作成後・教育プログラム作成後・プログラム開始前・プログラム開始後の定期的な時期（半年おき）に実施状況を収集して、進捗状況の把握を行う。中間研究並びに最終研究報告内容はブランディング事業実施委員会によって評価される。

(3) 再生医学的アプローチからの戦略（口腔組織再生チーム）

ステークホルダー (3)-②：

高齢者群から高齢化予備群までも含めた良好な咀嚼機能の回復および維持を目指す新たな歯科再生療法の創出を踏まえて、ステークホルダーを

- 1) 歯科医学および再生医学に関連する学術界・研究機関
- 2) 本学の大学院生及び若手研究者
- 3) 臨床応用の準備段階まで進める平成31年からは壮年者および高齢者 に定める。

本学のイメージ (3)-③：

人がいつまでも食べる喜びを持ち続けることができる新しい歯科再生医療の開発を目指す大学

事前分析 (3)-④：

国内歯学部インプラント学研究者2名、歯周病学研究者1名、福岡市歯科医師会関係者1名から意見聴取を行った（表参照）。これまでの調査によって、高齢者における歯の喪失は、壮年期での歯周病の進行程度に依存するものと考えられるため、高齢者以前の段階での歯槽骨吸収への対応が超高齢社会における咀嚼機能の維持には必要であることが明らかになった。歯科インプラント治療においても、インプラント体へ密着した歯根膜を含む歯周組織の再生によって「噛みごたえ」などの感覚を回復することは大きな課題であり、食べる喜びのよみがえる再生医療として成果が期待されていることがわかった。また、本学のこれまでの再生医学研究の実績は高く評価されており、合わせて本事業への期待の大きなことが明らかとなった。

情報発信 (3)-⑤：

本成果は、研究成果発表会、学会発表・論文、本学ホームページ上での公表やプレスリリースなどのメディア活用によって学内外へ広報する。また、市民公開講座の開催も行う。

- 1) 歯科医学および再生医学に関連する学術界・研究機関：学内発表会、協議会、関連学会での成果発表および

び学術雑誌に掲載された論文の概要などをホームページおよび広報誌により公開する。

2) 本学の大学院生および若手研究者： チーム内での情報交換会や学内発表会で周知する。

3) 壮年者および高齢者： 介護老人施設および関連病院において、研究成果や将来の展望についての説明会を行う。また、本学医科歯科総合病院の受診者に対しては広報誌を配布する。希望者に対しては進捗状況の説明を行う。

具体的な工程 (3)-⑥：

研究ブランディング事業実施委員会は、「口腔医学」の理念を具体化した研究ブランディング事業を支える1つの戦略として本アプローチを位置づけ、ステークホルダーと本学イメージを立案した。その後の外部からの意見聴取に基づいて事前分析を行い、情報発信方法を決定した。

1) 学术界・研究機関 および 2) 大学院生・若手研究者： 平成31年までに、歯の喪失を防ぐ歯周病治療と歯の喪失に対する歯科インプラント治療をサポートする再生療法の基盤となる研究を展開する。成果を学会発表や論文掲載にて随時公開する。

3) 壮年者および高齢者： 高齢者に特徴的な歯周組織複合体形成を図るために、倫理委員会承認のもとで本人より同意を得て細胞サンプルを入手する。地域住民へ研究の意義と成果をわかりやすく公開し、再生療法を用いた歯周組織構築の可能性についての啓発活動を行う。

工程ごとの成果指標【達成目標】 (3)-⑦：

1. 咀嚼機能の回復および維持につながる組織化スフェロイド形成による歯周組織機能回復法の開発を完了する。

- ・ 歯の喪失に対する歯科インプラント治療をサポートする再生療法の基盤
- ・ 歯周病病変部での歯周組織複合体を誘導する再生療法の基盤

各プロジェクトの進捗状況を判断・評価（学内発表会開催数【計5回（3月予定）】、学外からの有識者を招いての協議会開催数【計2回】、学会発表【計43題】及び論文掲載【計20編】）

2. 機能回復法の臨床試験に至る準備までを完了する。（検討報告会の開催【3回以上】と臨床研究の申請完了を評価）

3. 地域への広報活動を行なう。（広報誌掲載【2回】、説明会【2回】）

4. 本プロジェクト開始3年目である平成31年度終了後に中間研究報告書を作成、最終年である平成33年度終了時に最終研究報告書を作成する。

進捗状況の把握 (3)-⑧：

口腔組織再生チームが、報告書、論文・学会発表、シンポジウムの実施実績などの実施状況を収集して、進捗状況を把握・評価する。中間研究ならびに最終研究報告内容はブランディング事業実施委員会によって評価される。

項目	事業戦略全体	社会的アプローチ	教育的アプローチ	再生医学的アプローチ	氏名・所属	専門
外部評価	○			○	細川隆司（九州歯科大学 歯学科口腔機能学 口腔再建リハビリテーション学 教授）	口腔インプラント学研究者
				○	野口和行（鹿児島大学大学院歯学総合研究科顎顔面機能再建学歯周病学分野 教授）	歯周病学研究者
	○			○	澤瀬 隆（長崎大学大学院歯学総合研究科 展開医療科学講座 口腔インプラント学分野 教授）	口腔インプラント学研究者
		○	○		柿木保明（九州歯科大学 口腔環境科 教授）	高齢者歯科医療研究者・口腔ケア専門家
		○	○		柏崎晴彦（九州大学 高齢者歯科学・全身管理歯科学分野 教授）	高齢者歯科医療研究者・教育関連専門家
			○		安元佐和（福岡大学 医学部医学科 医学教育推進講座 教授）	医学教育研究者
				○	中澤浩二（北九州市立大学 国際環境工学部 環境生命工学科 教授）	組織細胞学研究者
				○	藤ヶ谷剛彦（九州大学大学院工学研究院 応用化学部門分子情報システム講座 准教授）	材料工学研究者
				○	Noriyoshi Kurihara, Ph.D, DDS 栗原徳善（Indiana University, Department of Medicine Hematology/Oncology、教授）	国外硬組織研究者
				○	Yuji Mishina, Ph.D. 三品裕司（University of Michigan School of Dentistry, Dept. of Biologic and Materials、教授）	国外硬組織研究者
		○	○		中 四良（福岡市歯科医師会早良支部 副会長）	地域歯科医療統括者
	○	○	○	○	神田晋爾（一般社団法人福岡市歯科医師会 副会長）	地域歯科医療統括者
	○	○	○	○	山下裕一（医療法人福西会 福西会病院 病院長）	高齢者医療従事者
		○			井林雪部（特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院 理事長/院長）	高齢者医療従事者
○	○			永野美紀（早良区保健福祉センター長）	地方行政機関	

4. 事業実施体制（2ページ以内）

① 『研究活動の実施体制』

【3つのチームの協同による研究体制】

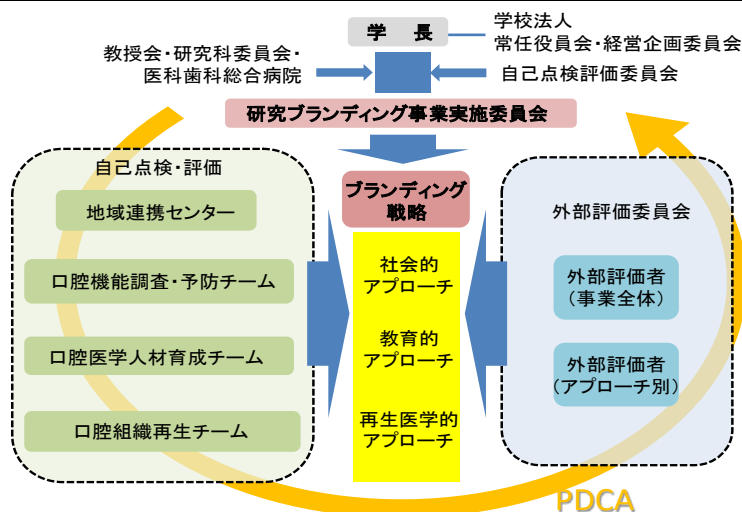
学長の統括の下で、「福岡歯科大学研究ブランディング事業実施委員会」が、本事業の社会的・教育的・再生医学的アプローチのそれぞれにプロジェクトチームを立ち上げ、管理・監督する。

その3チームは、

- (1) 口腔機能調査・予防チーム、
- (2) 口腔医学人材育成チーム、
- (3) 口腔組織再生チーム

からなり、高齢者歯科学、口腔インプラント学、歯周病学、一般医学などの臨床医歯学分野、口腔保健学、社会学などの社会医歯学分野や組織再生学、生理学、材料学、免疫学、病理学、薬理学などの基礎医歯学分野からの多様な専門領域の研究者が協力して

研究を遂行する。それぞれのチームリーダーのもと、スタッフと大学院生が本学各研究室、地域連携センター、再生医学研究センター、本学医科歯科総合病院および関連医療機関において研究を進めていく。動物実験、遺伝子組換え実験、臨床研究は所管する委員会の承認・指導の下で実施される。3つのチームによる研究活動の調整は、「研究ブランディング事業実施委員会」が担う。



(1) 口腔機能調査・予防チーム

【PDCAサイクルの機能】

口腔MCI健診チームの養成を行うとともに、地域包括支援センターや医療機関等の地域包括ケアシステムの認知症高齢者医療担当者と認知症予防・介入の連携組織を構築し（Plan）、地域在住高齢者を対象とした口腔健診あるいは介護予防活動を実施し、MCIを有すると認められた高齢者については認知症予防プログラム受講に誘導する。また、口腔健診で発見された疾患についても早期治療を勧告する。口腔関連指標とMCIとの関連を検討するとともに、口腔機能の維持向上法を基盤とする認知症予防プログラムを開発する。地域在住高齢者については口腔の状況および認知機能についても追跡調査を行う（Do）。年1回の自己点検・評価のほか、本学研究ブランディング事業実施委員会主催の事業成果発表での外部評価者を含めた評価によって、MCI保有者の割合やその状態の推移、口腔機能の維持向上法を基盤とする認知症予防プログラムの有効性を検証し（Check）、実施検査項目の見直しや認知症予防プログラムの内容の検討を行い改善を図る（Action）。

【学外との有機的な連携体制】

① 地方行政機関との連携：認知症に関連した医療費、介護費用について既存の調査などに関する情報を取り入れる。② 地域医療機関との連携：認知症を主として診察する精神科、地域医療担当機関にニーズと受け入れ状況の聴き取りを実施する体制を整える。③ 地域在住者との連携：地域在住者から介護負担についての聴き取りを実施し、また地域在住高齢者から口腔健診への参加意欲やMCIへの理解の聴き取りを実施する。④ 介護予防活動支援者との連携：口腔と全身の運動処方に関する期待や要望、参加者の口腔ならびに全身状態に関する情報共有のあり方について意見などを聴取する。

【外部評価体制】（3. ブランディング戦略 表参照）

地域の歯科医療を代表する者として1名、地域の高齢者医療を担う者2名、医療行政に関わる者1名、福岡市歯科医師会関係者1名、国内歯学部の高齢者歯科研究者2名に対して外部評価を依頼する。中間、最終年度に外部評価委員会を開催する。

(2) 口腔医学人材育成チーム

【PDCAサイクルの機能】

疾患別・病期病態別の口腔ケアマニュアルを策定し。これに基づいて歯科医師・看護師・歯科衛生士・言語聴覚士・管理栄養士・介護福祉士を対象にした教育プログラムと学生教育のプログラムを計画し（Plan）、本学医科歯科総合病院、近隣の連携病院、連携する介護老人施設にて多職種連携による疾患別・病期病態別の口腔ケアを実施する（Do）。年1回の自己点検・評価のほか、本学研究ブランディング事業実施委員会主催の事業成果発表で外部評価者を含めた評価を行う（Check）。この結果を翌年度の計画にフィードバックさせ改善を図る（Action）。

【学外との有機的な連携体制】

① 地域医療機関との連携：本事業前に意見聴取を実施した。医療機関3か所には、リハビリテーション病院、近隣地域総合病院が含まれ、「地域包括ケアシステムにおける口腔医学の展開と誤嚥性肺炎ゼロ地域の実現」という目標での連携が可能になった。② 福岡県歯科医師会と福岡市歯科医師会との連携：本事業に対して「超高齢社会における包括的地域医療に貢献できる口腔医学教育・臨床・研究活動」という観点からの意見を得ている。③ 地方行政機関との連携：医療費、介護費用について既存の調査などに関する情報が得られる。また、地域医療担当機関にニーズと受け入れ状況の聴き取りが可能である。

【外部評価体制】 (3. ブランディング戦略 表参照)

地域の歯科医療を代表する者として1名、地域の高齢者医療を担う者1名、福岡市歯科医師会関係者1名、国内歯学部の高齢者歯科研究者2名に対して外部評価を依頼する。さらに、教育関連専門家1名が外部評価者として参画する。中間、最終年度に外部評価委員会を開催する。

(3) 口腔組織再生チーム

【PDCAサイクルの機能】

再生医学研究センターでのミーティングおよび成果発表会にて、各プロジェクトの計画を発表し(Plan)、そこでの討論を経て計画の修正などを行う。プロジェクトに配属される教員および大学院生により研究を進める(Do)。また、定期的な検討会によって進捗状況を確認し、学会発表での質疑応答および論文投稿による査読内容を調査する。年1回の自己点検・評価のほか、本学研究ブランディング事業実施委員会主催の事業成果発表で外部評価者を含めた評価を行う(Check)。Checkでの評価を基にしてグループ全体および各プロジェクトでの計画の改善および修正を行い(Action)、新たな計画を立案する。

【学外との有機的な連携体制】

① アカデミアとの連携：本事業前に研究活動計画についての意見聴取を実施した。国内歯学部の著名なインプラント学研究者、歯周病研究者との連携を進めている。この連携によって、本ハイブリッドシステムの臨床応用についての助言を得ることが可能である。さらに他学部からは、幹細胞など組織細胞学に卓越した研究者、材料工学に卓越した研究者との連携を進めている。この連携によって、幹細胞スフェロイドの作成技術と良質なスキャホールドの創生に向けた貴重な助言を得ることが可能である。本地域にはアカデミア・医療機関との間で協力体制を構築できる土壌があり、九州歯科大学および九州大学があり、本学との学際的な交流もなされている。また、本学医科歯科総合病院、地域連携病院、介護老人施設や連携施設から医療ニーズを収集できる状況にある。② 企業との連携：本地域には、地域企業との間で協力体制を構築できる土壌がある。再生医学に関する企業群は九州北部に集積しており、デバイス関連企業1社とは既に「スフェロイドを用いた実験技術に適合した細胞培養デバイスの開発」という観点からの連携を行っている。バイオベンチャー1社とは「大型細胞塊スフェロイドソーティングによる組織化した幹細胞回収の応用」というテーマでの連携が可能になった。

【外部評価体制】 (3. ブランディング戦略 表参照)

国内歯学部のインプラント学研究者2名、歯周病学研究者1名、他学部の組織細胞学研究者1名、材料工学研究者1名、米国在住の硬組織研究者2名、福岡市歯科医師会関係者1名、地域医療を担う者1名に依頼する。中間、最終年度に外部評価委員会を開催する。

② 『ブランディング戦略の実施体制』

【学内の実施体制および自己点検・評価体制】

大学の研究ブランディング戦略を統括する部局として、平成28年から「福岡歯科大学研究ブランディング事業実施委員会」が整備された。委員長には学長をあたえ、専門委員として医科歯科総合病院長、大学の各部門を統括する部門長、研究を支援する事務局長、学長が指名する教職員数名から構成されている。これまでに、研究ブランディング事業実施委員会は、行政、学術界、医療機関、介護老人施設などのニーズを踏まえて大学の研究ブランディング戦略を具体化してきた(Plan)。本戦略の実現のために立ち上げた3つのアプローチのそれぞれに対するプロジェクトチームを管理・統括する(Do)。ブランディング戦略の進捗状況に関する自己点検・評価ならびに外部評価のために、事業成果発表会を年1回主催する(Check)。研究ブランディング事業実施委員会が各プロジェクトチームへ研究についての意見を出し、外部評価委員会がブランディング戦略についての意見を出す(Action)ことによって、本戦略の質を保証するPDCAサイクルを実現する。

【外部評価体制】 (3. ブランディング戦略 表参照)

各プロジェクトの外部評価者の中から6名をブランディング戦略の外部評価委員に充てる。中間、最終年度に外部評価委員会を開催する。

③ 『事業全体の実施体制』

【学内の実施体制および自己点検・評価体制】

ブランディング戦略の下での各チーム活動を総括した事業内容と予算措置は、本学を設置している学校法人福岡学園の常任役員会ならびに経営企画委員会にて管理される。学長は本事業の総責任者として、研究ブランディング事業実施委員会と各チームリーダーからの報告を受けて、本学の「口腔医学」の理念に基づいた将来ビジョンに適合した計画(Plan)、予算を適切に執行しながらの実施(Do)、全事業の達成度合いを検証(Check)、それに対する改善を指揮し(Action)、事業全体としてのPDCAの整備を図る。具体的な事業計画から実施工程の管理は、教授会・研究科委員会、検証作業と改善報告は「福岡歯科大学自己点検評価委員会」が担うことになっている。

本事業の実施や研究設備の整備に必要な経費の予算措置については、本学を設置している学校法人福岡学園において、事業計画や予算を審議する「常任役員会」で決定している。

5. 年次計画（3ページ以内）

平成29年度	
目標	<p>*【 】内は「<u>達成度評価が可能な指標（達成目標）</u>」を表す。（各年度とも同様）</p> <p>「<u>ブランディング戦略</u>」 <u>事業内容（準備状況）の情報発信とブランド認知度調査</u>【オープンキャンパスおよび学園祭展示ブース参加者（計800名）、アンケート回答数（200件）、特集記事・広告など（2件）】</p> <p>「<u>社会的アプローチ</u>」 <u>地域在住高齢者MCIスクリーニングシステムの構築</u>【養成スタッフ数（2チーム10名）、学会発表（2題）】、<u>MCI・歯科疾患早期治療のための医療連携網整備</u>【整備数（地域包括ケアセンター5圏域）】、<u>介護予防活動の整備</u>【活動施設調達数（6か所）】と地域高齢者への参加呼びかけ【配布チラシ数（全戸宛て31,420枚）】</p> <p>「<u>教育的アプローチ</u>」 <u>組織構成、疾患別・病期病態別口腔ケアマニュアル</u>（新口腔ケアマニュアル）<u>のプロトタイプ作成</u>【学会発表（2題）】</p> <p>「<u>再生医学的アプローチ</u>」 <u>幹細胞スフェロイドの培養法の開発</u>【学会発表（3題）】</p>
実施計画	<p>「<u>ブランディング戦略</u>」</p> <p>① 実施準備状況を地域への広報活動によって情報発信し、アンケートによってブランド認知度を調査する。【<u>測定方法</u>】ブランディング事業実施委員会によるアンケート項目決定と認知度のスコア化。</p> <p>「<u>社会的アプローチ</u>」 ①口腔健診・MCIスクリーニングスタッフを養成する。② 介護予防活動を行なう環境を整備する。③地域認知症相談医等との高齢者医療連携網を構築する。④ 地域住民へ参加勧奨する。【<u>測定方法</u>】活動チームの編成状況の把握。地域包括ケアの連携網構築。回覧板配送による全戸通知、高齢者参加数の調査。</p> <p>「<u>教育的アプローチ</u>」 ① 高齢者に多い疾患（認知症、肺炎、脳梗塞など）を中心とした各疾患別の病期・病態による全身状態の把握と口腔ケアの重症度を分類する。重症度に応じた新たな口腔ケアマニュアルのプロトタイプを作成する。【<u>測定方法</u>】既存のマニュアルとの比較表の作成、学会発表実績の確認。</p> <p>「<u>再生医学的アプローチ</u>」 ① 細胞ソーティング、RT-PCRおよびWestern blotting による評価法を用いて、使用する幹細胞の選定およびデバイスの選定によりスフェロイド培養法と分化誘導法を確立する。② バイオ企業と連携して、新規スキャホールドの開発をする。【<u>測定方法</u>】学内研究発表会（H30年3月）および学会発表数の再生医学研究センターによる調査。</p>
平成30年度	
目標	<p>「<u>ブランディング戦略</u>」 <u>進捗状況の情報発信とブランド認知度調査</u>【オープンキャンパスおよび学園祭展示の参加者（計800名）・アンケート回答数（200件）、特集記事・広告（2件）】</p> <p>「<u>社会的アプローチ</u>」 <u>口腔健診・MCIスクリーニング実施、コホート登録開始、介護予防活動広報、口腔疾患・MCIに対する早期介入</u>【ページビュー（3万）、参加者数（840人）、コホート登録者数（500人）、介入対象者数、学会発表（4題）】</p> <p>「<u>教育的アプローチ</u>」 正規の<u>新マニュアル作成完了</u>と臨床的効果についての評価の実施【学会発表（4題）】、教育プログラム立案【スタッフによる模擬実習実施回数（3回）、授業シラバス作成】</p> <p>「<u>再生医学的アプローチ</u>」 <u>組織化スフェロイドの開発</u>：スフェロイドでの類骨および歯根膜細胞の誘導【国内外の学会発表（10題）及びトップジャーナルへの論文掲載（5編）】</p>
実施計画	<p>「<u>ブランディング戦略</u>」 ① 実施状況を地域への広報活動によって情報発信し、アンケートによってブランド認知度を調査する。【<u>測定方法</u>】ブランディング事業実施委員会による認知度スコアの継続調査。</p> <p>「<u>社会的アプローチ</u>」 ① 地域在住高齢者・介護予防教室参加者を対象としたMCIスクリーニングや全身と口腔の健康調査を実施する。個別に結果をフィードバックし、治療の勧告を行なう。② 参加者をコホート集団へ登録する。③ <u>介護予防活動を実施</u>し、成果を公表する。【<u>測定方法</u>】地域活動チームによる実施回数、参加者数の把握。早期介入の対象者数・情報共有件数の調査。地域歯科医への紹介数の調査。介護予防活動ビデオの作成・Web配信でのページビュー数、広報誌掲載記事数の評価。</p> <p>「<u>教育的アプローチ</u>」 ① <u>新口腔ケアマニュアル・プロトタイプの臨床的検証を行ない</u>、正規の新口腔ケアマニュアルを完成させる。② それに基づく教育プログラムを立案し、各大学・短大の授業シラバスを作成する。【<u>測定方法</u>】多職種連携チームによる、口腔ケアマニュアルについてアンケート調査と学会発表回数・内容調査。教育プログラムを、授業コマ数・内容、成績評価、模擬実習実施回数などの項目により評価。</p> <p>「<u>再生医学的アプローチ</u>」 ① 幹細胞スフェロイドへの骨分化誘導および歯根膜誘導に関するターゲット遺伝子を網羅的検索により決定する。② 類骨あるいは歯根膜構成類似細胞へ</p>

	<p>の誘導法を確立する。③ 細胞ソーティング法・共培養法を用いて類骨および歯根膜含有スフェロイド体を形成する。④ 骨欠損動物モデルに幹細胞含有スキャホールドの埋入実験を行い、欠損部組織からの修復に関連する遺伝子の網羅的検索を行う。【測定方法】 学内研究発表会（H31年3月予定）および学会・論文報告数並びに内容を再生医学研究センターが調査。</p>
<p>平成31年度</p>	
<p>目標</p>	<p>「<u>ブランディング戦略</u>」 中間年度までの<u>実施内容の情報発信</u>【市民公開講座(1回)、オープンキャンパス・学園祭展示ブースの参加者(計800名)・アンケート回答数(200件)、特集記事・広告などの数(2件)】と<u>ブランディング戦略の分析と修正</u>【中間研究報告(各チーム案)の取り纏め、<u>外部評価委員からの意見聴取</u>、<u>中間評価報告書提出</u>】 「<u>社会的アプローチ</u>」 <u>口腔機能維持と認知症予防の関連性についての成果公表</u>【学会発表(5題)、論文(2編)、<u>中間研究報告書作成</u>】、<u>介護予防活動</u>【参加者数(600人)】と広報の継続【公開講座(1回)】、<u>健康フォローアップ調査の開始</u>【参加者数(840人)】 「<u>教育的アプローチ</u>」 <u>新口腔ケアマニュアルによる介入開始および臨床的効果の検証</u>【学会発表(5題)、論文(2編)、アンケートによる満足度分析・口腔状態改善度分析数(各100件)】、<u>教育プログラム開始</u>【新マニュアルを用いた多職種連携教育プログラムのための授業シラバス、教育機関数(5機関)・学生数(1,000人)、<u>中間研究報告書作成</u>】 「<u>再生医学的アプローチ</u>」 <u>組織化スフェロイド法による機能的歯周組織複合体の形成</u>【学会発表(10題)、論文掲載(5編)、市民公開講座及び中間研究報告書作成】</p>
<p>実施計画</p>	<p>「<u>ブランディング戦略</u>」 ① 中間年度までの達成状況を<u>地域への広報活動</u>によって情報発信し、アンケートによってブランド認知度を調査する。② <u>ブランディング戦略</u>を分析して<u>戦略</u>の修正を図る。【測定方法】 <u>ブランディング事業実施委員会</u>が広報活動状況を調査する。中間報告書の取り纏め、<u>外部評価依頼と外部評価委員会の開催</u>。 「<u>社会的アプローチ</u>」 ① <u>口腔機能の維持と認知症予防の関連性</u>についての成果を取り纏める。② MCIスクリーニングを含む<u>口腔と全身の健康フォローアップ調査</u>を開始する。③ <u>介護予防活動</u>や調査結果に関するフィードバックを前年度から継続する。④ MCIから認知症に移行した「<u>イベント</u>」を<u>口腔関連指標と関連づけて蓄積</u>する。⑤ <u>地域高齢者への広報活動</u>について前年度を継続する。⑥ <u>中間研究報告書</u>を作成する。【測定方法】 <u>口腔指標—MCI関連性</u>の分析結果に関する学会発表・掲載論文数の調査。イベント数の把握。コホート登録者数、調査参加者数の評価。本学ホームページのページビュー数、広報誌掲載記事数等の調査、福岡歯科大学公開講座の開催(7月上旬)での参加者数の調査。 「<u>教育的アプローチ</u>」 ① <u>新口腔ケアマニュアルによる臨床的効果と満足度調査</u>のデータを蓄積し、問題点の抽出を行なう。② <u>新しい教育プログラムによる学修習熟度</u>を随時チェックする。③ <u>外部評価者を含めた定期会議</u>において<u>教育学的アプローチ</u>についての<u>中間研究報告書</u>を作成する。【測定方法】 <u>新マニュアル導入前のデータと比較</u>して、<u>口腔状態の改善効果</u>、<u>嚥下機能の改善効果</u>、<u>肺炎発症率の変化</u>、さらに<u>病院入院患者</u>に関しては<u>在院日数短縮</u>などを検討。関連施設におけるOHATによる<u>口腔状態評価と歯科治療・嚥下指導の実施</u>による改善度分析、<u>患者満足度アンケート調査</u>。学生提出のポートフォリオや小テスト、アンケート等による理解度の評価。学会・論文報告の把握。 「<u>再生医学的アプローチ</u>」 ① <u>インプラントおよび歯周病治療に適応する「セメント質—歯根膜—歯槽骨」複合体</u>からなるスフェロイドを形成する。<u>In vitro</u>における<u>組織化スフェロイドとインプラント体との相互作用</u>をモデル動物を用いて<u>組織学的に検索</u>する。② <u>修復関連遺伝子</u>をスキャホールドに含有させて、<u>ニッチ・スキャホールド</u>を完成させる。③ <u>組織化スフェロイドで血管および神経組織が機能しているか</u>を組織標本の作製によって検討する。④ <u>中間研究報告書</u>を作成する。【測定方法】 学内研究発表会および学会・論文報告数並びに内容、市民向け情報公開数を再生医学研究センターが調査。</p>
<p>平成32年度</p>	
<p>目標</p>	<p>「<u>ブランディング戦略</u>」 <u>進捗状況の情報発信</u>【オープンキャンパス・学園祭展示ブースの参加者(計800名)・アンケート回答数(500件)、特集記事・広告など(2件)】 「<u>社会的アプローチ</u>」 <u>介護予防活動継続</u>、<u>高齢者及び介護予防活動参加者に対するフォローアップ調査継続</u>と<u>MCIスクリーニングシステム改良</u>【学会発表(4題)】 「<u>教育的アプローチ</u>」 <u>多職種連携教育プログラム実施</u>【新口腔ケアマニュアルを用いた教育プログラム実施に関する改善状況等の報告書、学会発表(4題)】 「<u>再生医学的アプローチ</u>」 <u>高齢者由来幹細胞スフェロイドからの歯周組織複合体の形成</u>と業績発表【国内外の学会発表(10題)及びトップジャーナルへの掲載(5編)】</p>

<p>実施計画</p>	<p>「ブランディング戦略」 ① 実施状況を地域への広報活動によって情報発信し、アンケートによってブランド認知度を調査する。【測定方法】 広報活動状況を確認。</p> <p>「社会的アプローチ」 ① 口腔と全身の健康フォローアップ調査を継続する。「イベント」調査の継続によって口腔関連指標との関係を分析する。② MCIスクリーニングシステムの改善すべき点を抽出する。③ 介護予防活動、早期介入、地域高齢者への広報活動について前年度を継続する。【測定方法】 地域活動チームによる、コホート登録者数、認知機能の推移、イベント数の調査。学会発表、報告論文数、本学ホームページのビュー数、広報誌掲載記事数の把握。</p> <p>「教育的アプローチ」 ① 学修習熟度のチェックを行う。② 臨床的効果および患者満足度のデータを蓄積する。③ 学生の理解度および臨床的効果や患者満足度を加味し、多職種連携口腔ケア教育プログラムの改善すべき点を抽出する。【測定方法】 外部評価者を含めた定期会議において、新授業シラバスをもとにした履修状況や学生ポートフォリオ・アンケート等の解析により理解度調査。</p> <p>「再生医学的アプローチ」 ① 老化促進動物、大型動物、及び本学研究倫理審査の承認を得た上で、高齢者ボランティアからの幹細胞単離を行う。② 高齢者に適合した歯周組織複合体の誘導法などの解析を <i>in vitro</i> で行う。高齢者におけるターゲット遺伝子の誘導法を確立する。③ 歯周組織複合体を老化促進動物に用いて、生体内での評価を行う。マイクロCT法および組織学的検索法から、高齢者特有の修復機転などの有無を検討する。【測定方法】 学内研究発表会および学会・論文報告数並びに内容を再生医学研究センターが調査。</p>
<p>平成33年度</p>	
<p>目標</p>	<p>「ブランディング戦略」 ブランディング事業達成の情報発信【参加者・アンケート実施数、特集記事・広告など（計2件）】、ブランディング戦略の分析と総括【最終研究報告（各チーム案）の取り纏め、外部評価委員からの意見聴取、事後評価報告書提出】</p> <p>「社会的アプローチ」 地域住民への口腔医学基盤型介護予防の啓発【活動実績、アンケート数（500件）】、社会的アプローチについての総括【学会発表数（5題）、論文掲載数（3編）、最終研究報告書作成】、地域行政への提言【地域行政への政策提言】</p> <p>「教育的アプローチ」 教育プログラムの幅広い実施と職能団体や地域病院への公開【教育プログラムについての実施状況調査、新口腔ケアマニュアルについての講習会の開催数（3回）、歯科医師会や地域病院への配布数（2,000部）】 学術界への公表【新マニュアルの活用状況調査についての学会発表数（5題）・論文掲載数（3編）】、教育的アプローチについての総括【最終研究報告書作成】</p> <p>「再生医学的アプローチ」 地域への広報活動と臨床応用への準備【広報誌掲載数（2回）、説明会（2回）、参加者・アンケート回答者数、市民公開講座】【臨床応用への向け本学研究倫理委員会へ申請書の提出】【国内外の学会発表数（10題）、論文掲載数（5編）】 再生医学的アプローチについての総括【最終研究報告書作成】</p>
<p>実施計画</p>	<p>「ブランディング戦略」 ① 最終年度までの達成状況を地域への広報活動によって情報発信する。② ブランディング戦略を分析して本事業を総括する。【測定方法】 ブランディング事業実施委員会がアンケートのスコア化によって最終達成度を調査。ブランディング事業実施委員会が最終研究報告書の編集と評価依頼、外部評価委員会の開催。</p> <p>「社会的アプローチ」 ① 口腔と全身の健康フォローアップ調査と口腔関連指標との関連についての分析を完了する。② 地域在住高齢者や介護予防活動参加者の意識調査を行なう。③ 福岡市・早良区への地域介護予防事業に関する政策提言を行なう。④ 社会的アプローチについての最終研究報告。【測定方法】 全身と口腔の健康調査結果にもとづくスクリーニングシステム改善の検討についての学会発表演題数、報告論文数を調査。口腔関連指標とMCIの関連にもとづいて、認知症予防のため口腔の健康を維持することの大切さについてのアンケート回収数・回答内容による評価。</p> <p>「教育的アプローチ」 ① 新口腔ケアマニュアルを用いた臨床的効果・患者満足度のデータ解析、多職種連携教育プログラムの実施状況調査を行い、関連学会・学術誌で発表する。② 職能団体、地域病院に向けて新口腔ケアマニュアルについて周知する。③ 教育的アプローチについての最終研究報告。【測定方法】 口腔状態評価と歯科治療・嚥下指導の実施による改善度分析、患者満足度アンケート調査数、論文発表数の調査。歯科医師会・歯科衛生士会・地域病院向けの講習会開催数、マニュアル配布数の調査。</p> <p>「再生医学的アプローチ」 ① 本学医科歯科総合病院・口腔インプラント科及び歯周病科や連携医療機関とともに、個別の高齢者由来の歯周組織複合体を用いた臨床応用法の検討に入る。② 研究成果を踏まえて具体的な臨床応用術式を検討し、臨床研究の申請書を提出する。③ 本事業の成果や将来展望を地域へ広報する。④ 再生医学的アプローチについての最終研究報告。【測定方法】 検討報告会の開催と報告書の内容を本学医科歯科総合病院が調査。学内研究発表会（H34年3月）および学会・論文報告数、地域公開数、並びに内容の評価。</p>

6. 既選定事業との関連（該当する場合のみ：1ページ以内）

該当なし